

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和2年10月】

■調査概要（データ対象期間：令和2年10月1日～10月31日）

○調査期間：令和2年10月29日～令和2年11月20日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業19企業、製造業21企業、卸売業12企業、小売業23企業

飲食業17企業、サービス業46企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計138企業>

○調査項目：10月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲50.3）よりマイナス幅が17.7ポイント縮小し、▲32.6となった。業種別では、小売業、サービス業、卸売業、飲食業、建設業ではマイナス幅が縮小した。製造業はマイナス幅が拡大した。

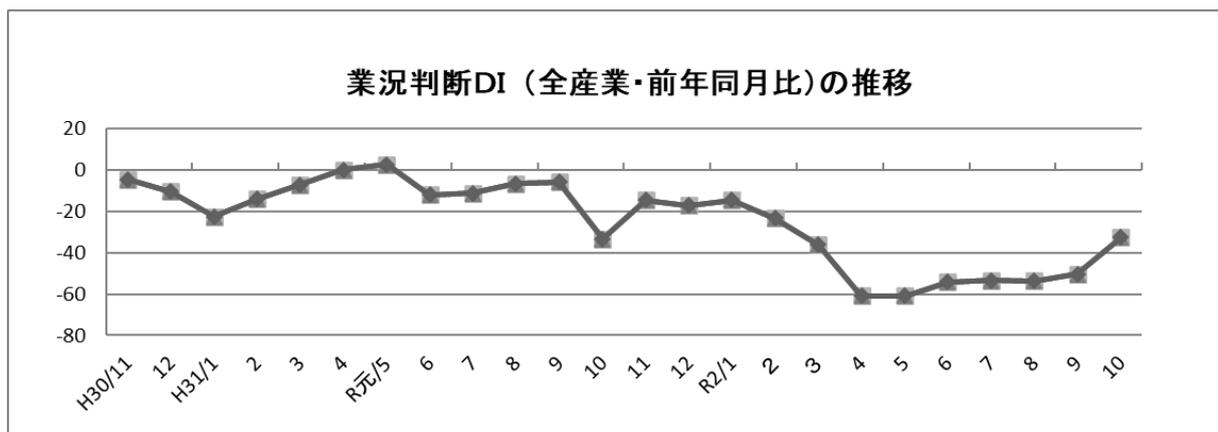
○全産業合計の水準DIは、前月（▲49.6）よりマイナス幅が16.3ポイント縮小し、▲33.3となった。業種別では、卸売業、製造業、小売業、サービス業、飲食業はマイナス幅が縮小した。建設業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.3 (5.6)	42.8 (38.5)	44.9 (55.9)	▲ 32.6 (▲ 50.3)	11.6 (6.3)	43.5 (37.8)	44.9 (55.9)	▲ 33.3 (▲ 49.6)
建設業	0.0 (0.0)	73.7 (69.6)	26.3 (30.4)	▲ 26.3 (▲ 30.4)	0.0 (0.0)	73.7 (73.9)	26.3 (26.1)	▲ 26.3 (▲ 26.1)
製造業	9.5 (8.0)	23.8 (28.0)	66.7 (64.0)	▲ 57.2 (▲ 56.0)	19.0 (8.0)	19.1 (20.0)	61.9 (72.0)	▲ 42.9 (▲ 64.0)
卸売業	8.3 (7.7)	41.7 (23.1)	50.0 (69.2)	▲ 41.7 (▲ 61.5)	8.3 (7.7)	50.0 (15.4)	41.7 (76.9)	▲ 33.4 (▲ 69.2)
小売業	30.4 (18.2)	34.8 (22.7)	34.8 (59.1)	▲ 4.4 (▲ 40.9)	17.4 (18.2)	43.5 (22.7)	39.1 (59.1)	▲ 21.7 (▲ 40.9)
飲食業	5.9 (0.0)	11.7 (11.8)	82.4 (88.2)	▲ 76.5 (▲ 88.2)	11.8 (5.9)	11.7 (17.6)	76.5 (76.5)	▲ 64.7 (▲ 70.6)
サービス業	13.0 (2.3)	54.4 (51.2)	32.6 (46.5)	▲ 19.6 (▲ 44.2)	10.9 (2.3)	52.1 (51.2)	37.0 (46.5)	▲ 26.1 (▲ 44.2)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

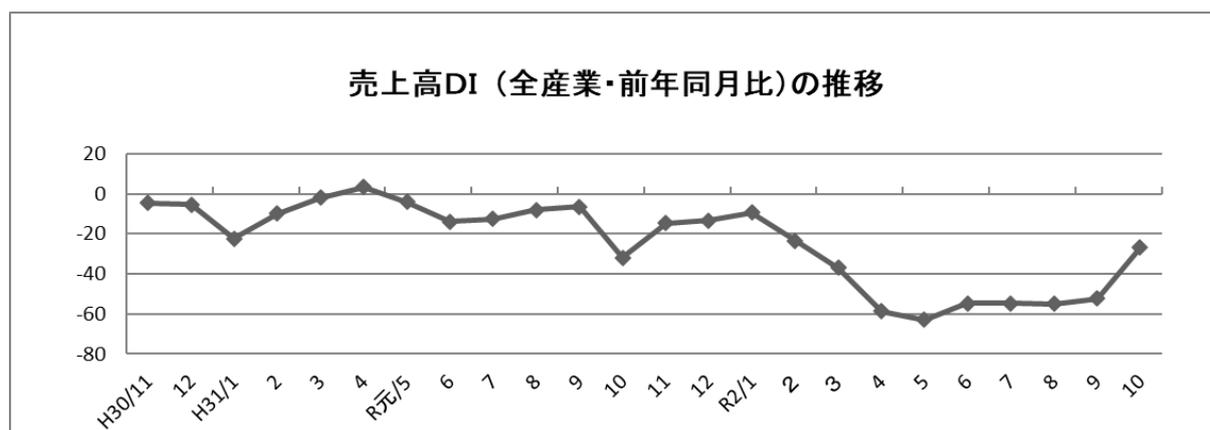


2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲52.4）よりマイナス幅が25.6ポイント縮小して、▲26.8となった。業種別に見ると、全ての業種においてマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 32.0	▲ 14.6	▲ 13.3	▲ 9.3	▲ 23.4	▲ 37.0	▲ 58.6	▲ 63.0	▲ 54.8	▲ 54.8	▲ 54.9	▲ 52.4	▲ 26.8
建 設 業	4.0	0.0	▲ 4.0	16.6	▲ 12.5	▲ 5.0	▲ 35.0	▲ 18.2	▲ 29.2	▲ 31.8	▲ 35.0	▲ 39.1	▲ 15.8
製 造 業	0.0	▲ 18.2	▲ 40.9	▲ 14.3	▲ 41.0	▲ 19.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 70.6	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6
卸 売 業	▲ 64.3	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 53.8	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0
小 売 業	▲ 39.3	▲ 21.9	▲ 6.7	▲ 23.4	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 72.0	▲ 32.0	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1
飲 食 業	▲ 76.5	▲ 43.8	▲ 20.0	▲ 31.2	▲ 47.0	▲ 92.9	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 88.2	▲ 58.8
サービス業	▲ 34.1	4.6	0.0	2.2	▲ 8.9	▲ 25.5	▲ 56.8	▲ 61.4	▲ 65.9	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4

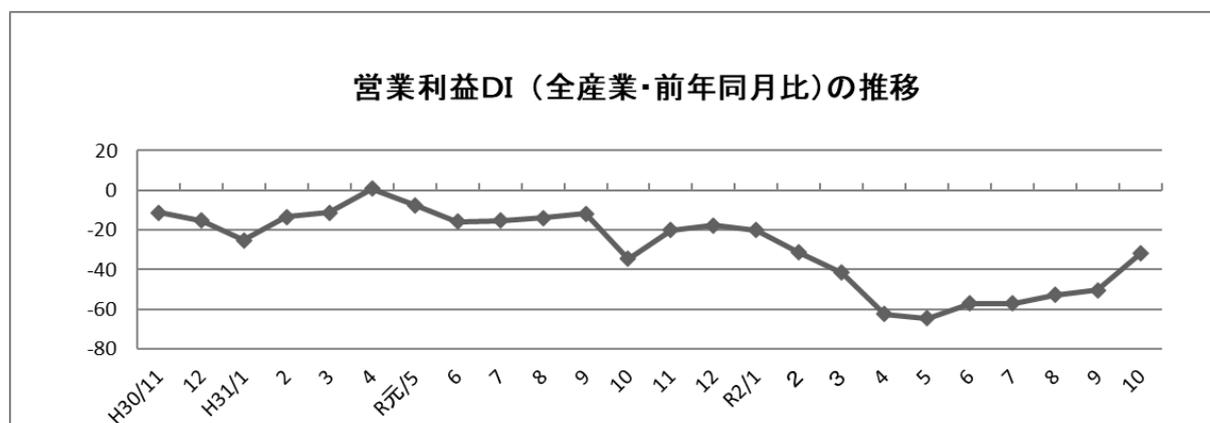


3. 営業利益D I（前年同月比）

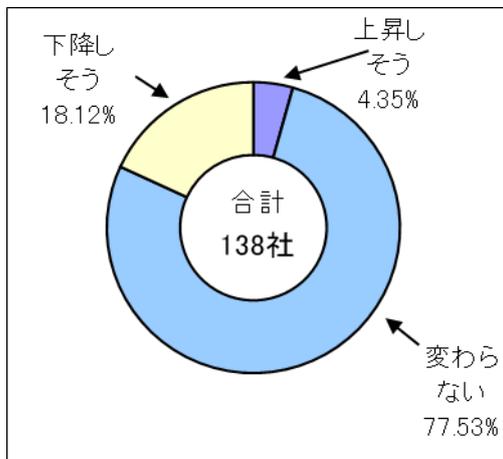
○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲50.3）よりマイナス幅が18.4ポイント縮小して、▲31.9となった。業種別に見ると、小売業、サービス業、飲食業、卸売業、製造業はマイナス幅が縮小した。建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 34.7	▲ 20.0	▲ 17.8	▲ 20.0	▲ 31.3	▲ 41.5	▲ 62.5	▲ 64.5	▲ 57.0	▲ 57.1	▲ 52.8	▲ 50.3	▲ 31.9
建 設 業	▲ 4.0	▲ 4.0	0.0	▲ 4.2	▲ 29.1	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 31.8	▲ 37.5	▲ 36.4	▲ 40.0	▲ 30.4	▲ 31.6
製 造 業	▲ 10.5	▲ 31.8	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 81.2	▲ 65.0	▲ 82.3	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4
卸 売 業	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 42.9	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0
小 売 業	▲ 46.4	▲ 28.1	▲ 16.7	▲ 36.7	▲ 35.7	▲ 46.2	▲ 54.2	▲ 68.0	▲ 32.0	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7
飲 食 業	▲ 82.4	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 37.5	▲ 52.9	▲ 85.7	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6
サービス業	▲ 31.9	▲ 4.6	▲ 4.4	0.0	▲ 8.9	▲ 27.9	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 63.5	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

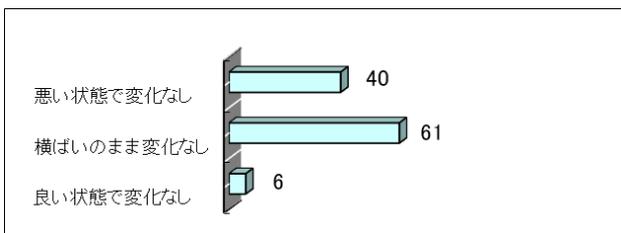


○令和2年11月～令和3年1月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ2.64ポイント減少し4.35%、「下降しそう」が2.74ポイント増加し18.12%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲10.6)、製造業(▲33.3)、卸売業(▲8.3)、小売業(▲8.7)、飲食業(▲23.5)、サービス業(▲6.5)であった。

➡「上昇しそう」では「9、10月の減少分を11、12月で挽回するため」「7月の長雨による災害復旧工事が10件発注されるため」(建設業)「クリスマスや年末年始でテイクアウト需要が伸びると予想するため」(小売業)「いくつかの仕掛中のプロジェクトがあり、回収の見込みがあるため」「コロナ禍による失業者の増加で職業訓練受講者数の増加が見込まれるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

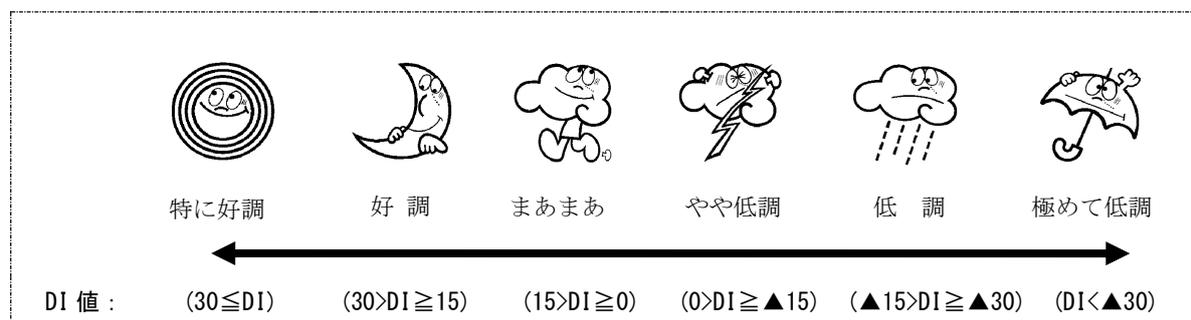
➡「変わらない」では「特別な動きはないため」(製造業)「11月は、昨年より営業日数を増やすが、それほど増益になりそうもないため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「新型コロナウイルス感染症の影響で今年は下降しそうのため」(建設業)「夏から手掛けていた大口が完納して10月が良すぎたため」「売上の落ち込み、冬季に差し掛かり新型コロナウイルス感染症の第3波の懸念が重なるため」「板金の仕事1,000万円分、別のメーカーへ発注されたため」「受注が20%ダウンしているため」(製造業)「新型コロナウイルス感染症で先行きが不透明で不安なため」(小売業)「Go To トラベルキャンペーン事業で県外者が多く、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えると思われるため」「冬場にかけて新型コロナウイルス感染症患者の増加が見込まれるため」「忘年会などの予約が入るあてがないため」「コロナ禍での集客が難しいため」(飲食業)「一時的に業務が多かったため」「新型コロナウイルス感染症の影響で税収減に伴い、公共事業予算の減額が始まったため」「閑散期、新型コロナウイルス感染症第3波の影響のため」(サービス業)といった声が寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	4.0	0.0	▲4.0	16.6	▲12.5	▲5.0	▲35.0	▲18.2	▲29.2	▲31.8	▲35.0	▲39.1	▲15.8
受注量	20.0	4.0	▲4.0	0.0	▲16.7	▲25.0	▲55.0	▲36.4	▲29.2	▲27.3	▲25.0	▲34.8	▲21.0
受注単価	0.0	▲4.0	▲4.0	0.0	▲8.3	▲5.0	▲15.0	▲18.2	▲20.8	▲18.2	▲25.0	▲21.7	▲10.5
営業利益	▲4.0	▲4.0	0.0	▲4.2	▲29.1	▲30.0	▲40.0	▲31.8	▲37.5	▲36.4	▲40.0	▲30.4	▲31.6
見通し	4.0	0.0	▲8.0	4.2	▲12.5	▲5.0	▲25.0	▲13.7	▲4.2	▲4.6	0.0	▲8.7	▲10.6

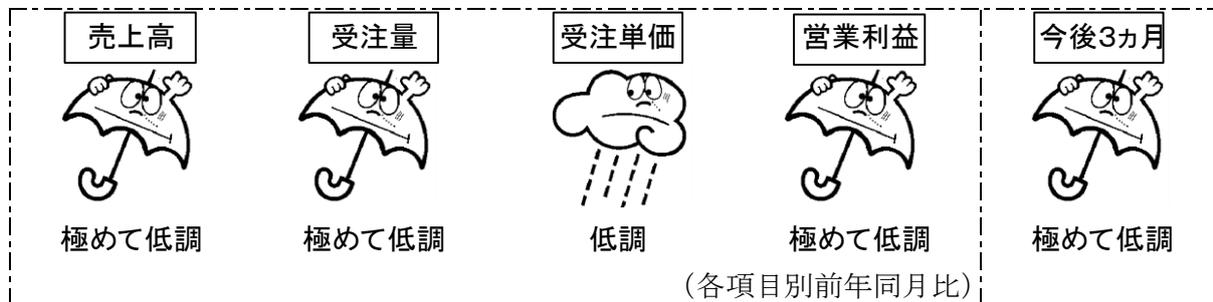
<経営者の目・見方・etc>

- 総合建設
 - ・土木に関しては各社それぞれ仕事を確保し、いっぱいいっぱいの状態である。
- 建築工事
 - ・今年は台風の影響がなかったため、この時期としては、現場は好調であった。
- 土木工事
 - ・一般的に受注量は上がっているが、原材料の仕入れや人材不足などで動きが鈍く感じる。
- 鉄工
 - ・直近の仕事には過不足を感じないが、来年以降については非常に不透明さを感じる。雇用については求人倍率が下がっているが応募してくれる人がほとんどいない。人材確保については、やはり困難さを感じる。
- 石材
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響は直接あるか、ないか分からないが、受注が少ないので不安である。
- 電気工事
 - ・これから冬に向かいインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症が今まで以上に心配である。会社としては万全の対策を講じたい。

管工事

・今年分の受注は変わらなかったが、来年分については3月までが見通せない。少しずつ新型コロナウイルス感染症の影響が出てくるのではないかとと思われる。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	0.0	▲ 18.2	▲ 40.9	▲ 14.3	▲ 41.0	▲ 19.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 70.6	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6
受注量	▲ 10.5	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 19.0	▲ 41.0	▲ 33.3	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 81.0	▲ 59.1	▲ 52.0	▲ 42.8
受注単価	▲ 15.8	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 14.2	▲ 9.1	▲ 4.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.3	▲ 42.9	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 19.0
営業利益	▲ 10.5	▲ 31.8	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 81.2	▲ 65.0	▲ 82.3	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4
見通し	▲ 15.8	▲ 27.3	▲ 4.5	4.8	▲ 22.8	▲ 38.1	▲ 31.3	▲ 30.0	▲ 35.3	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 20.0	▲ 33.3

<経営者の目・見方・etc>

印刷

・官公庁予算見積の時期である。予算準拠主義に基づいた正しい積算が行われることを切に願う。建設業や土木業と異なり、客単価も枚数・部数も地方では少なくなりがち傾向においてデフレマインドで予算見積もりをおこなうことは、この業界において決して持続可能なことではない。コロナ禍の上に今は高度経済成長期でもバブル期でもない。今なお業界救済のための最低価格にすら全く動けていない状況を憂慮せねばならない。昨年の同月にも訴えたが、業界組合での動きはいまだ全く見られない。

精密機器

・一部回復の動きもみられるが、ヨーロッパの新型コロナウイルス感染症の再拡大、アメリカ大統領選挙など、今後の見通しがつかない状況が続いている。過大な期待はできない状況である。

精密機器組立

・底を脱した感はあるが、まだまだ厳しい。今年くらいから動きはありそうだが、最近の新型コロナウイルス感染症の状況を見ると安心できない。

小型情報機器組立

・コロナ禍では、世界経済の先行きの見通しが見えない。

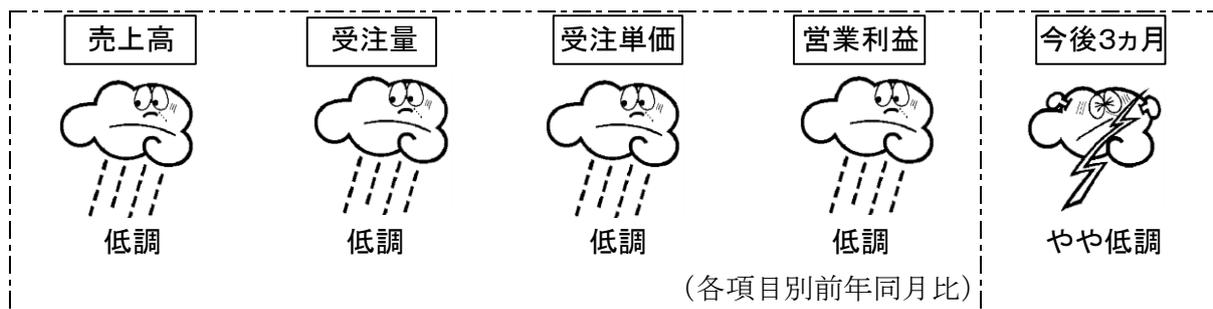
プラスチック製造

・受注量が通常に戻っておらず、時短や休業の状況を継続しているが、雇用調整助成金が12月で終了となった場合、1月以降は非常に不安な状況となる。

金属塗装

・8、9月より上向きにはなったが、昨年比は大幅に落ちている。新型コロナウイルス感染症の影響がかなり大きい。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 64.3	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 53.8	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0
販売客数	▲ 28.6	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 28.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 30.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 16.7
販売客単価	▲ 35.7	▲ 8.4	7.7	▲ 23.1	▲ 7.1	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 27.3	▲ 15.4	▲ 33.4	13.3	▲ 30.8	▲ 16.7
営業利益	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 42.9	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0
見通し	0.0	▲ 16.7	7.7	▲ 23.1	▲ 35.7	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 7.7	▲ 8.3	0.0	7.7	▲ 8.3

<経営者の目・見方・etc>

土産品

・Go To トラベルキャンペーン事業による影響は大きく、非常に助かった。10月分だけで7割近く回復している。地域共通クーポンを使用され、土産品を購入される観光客が多く、商品在庫調整、品切れする商品もあり、感謝している。

魚介類

・得意先が新型コロナウイルス感染症の影響で、閉店になってしまわないか心配である。

青果

・野菜の単価は前年並だが、果実の単価は前年の130%であった。巣ごもり需要で量販店の動きは相変わらず良く、全体的に売上増であった。11、12月はギフト野菜と果物に期待している。

青果卸小売業

・新型コロナウイルス感染症の影響で遠くに行けない方々が、道の駅など観光と買い物を同時に済ませる形が多かった。近隣の野菜市場に流れ、小売店は売上が少なかった。

金属製品

・在庫が滞留していた分、メーカーへの発注量が制限されていたため、一部品薄感も感じられる。各業界で高低差はあるものの、動き出してきたようだ。建築関係は、コロナ禍の影響により、秋口以降動き出すとされていた案件が少なくなっている。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 39.3	▲ 21.9	▲ 6.7	▲ 23.4	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 72.0	▲ 32.0	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1
販売客数	▲ 42.9	▲ 25.0	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 35.7	▲ 61.5	▲ 62.5	▲ 68.0	▲ 44.0	▲ 54.1	▲ 30.4	▲ 36.4	▲ 26.1
販売客単価	▲ 35.8	▲ 15.6	10.0	▲ 16.7	3.6	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 28.0	▲ 12.0	▲ 37.5	▲ 21.7	▲ 31.9	▲ 4.3
営業利益	▲ 46.4	▲ 28.1	▲ 16.7	▲ 36.7	▲ 35.7	▲ 46.2	▲ 54.2	▲ 68.0	▲ 32.0	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7
見通し	▲ 10.7	▲ 9.4	▲ 3.3	▲ 26.6	▲ 53.6	▲ 61.6	▲ 45.8	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 17.4	0.0	▲ 8.7

<経営者の目・見方・etc>

印章

・修学旅行・団体バス観光の観光客が少しずつ入ってきている。毎年東京で開催される印章業界の展示会への参加者は前年比6割減で閑散としていた。ハンコ業界への逆風はまだ続きそうである。廃業を考えなければならぬかもしれない。

印章・刃物研ぎ

・河野大臣の不用意な発言により、はんこが無くなるようなイメージが世間に広まり、全く理不尽極まりない。行政及び内閣、政府はすべてにおいて気を配るべきである。

洋菓子店

・この先の11月～来年3月までは、洋菓子業界の繁忙期であるが、新型コロナウイルス感染症で正直先が読めない。また、クリスマスなどは混雑を避けるために、かなりの台数を前払いにてお客様から予約を頂いている。スタッフも含め自身の健康管理を大事にしていかなないと大変なことになる。引き続き新型コロナウイルス感染症には注意していきたい。

和菓子

・今までは自分のためだけの商品購入されるお客様がほとんどであったが、地域共通クーポンでお土産品を皆様に配るといった気持ちで購入して下さるようになった。

おやき

・新しい取引先への売上が順調であり、既存の取引先の一部の売上も上がっているため、新型コロナウイルス感染症の影響も若干緩和されている。

生鮮食品

・去年は台風で、松本市内店舗も早めに閉めたりしたが、今年は人出もあり、良かった。Go To トラベルキャンペーン事業により、県外へ出かけるきっかけになったが、また新型コロナウイルス感染症患者が増えてきて見込みがつかない。

婦人服

・10月はGo To トラベルキャンペーン事業を活用して旅行されるお客様からのお買い上げと、フェアを行ったことで活気があって、前年並みの数字で終えることができた。ファッション雑誌も、見て楽しい紙面となり、品揃えなどで期待に応えられる内容にしていきたい。

化粧品

・土日は観光客が増え、賑やかになってきた。平日も少しずつ通行客が増えているように感じるが、新型コロナウイルス感染症の影響が心配で

住宅機器
陶磁器

ある。イベントの中止が増えているが、来年は様子を見ながらも、対策をとってのイベントは続けていくべきだと思う。

- ・回復傾向ではあるが、まだまだ気は抜けない。
- ・今年にはコロナ禍で大変だが、去年は台風水害に増税の反動、ポイント還元への対応などもあり、毎年苦勞が絶えない。Go To Eat キャンペーン事業も始まり、人の動きが戻りつつあるが、気温の低下や乾燥で感染症の影響を受けやすい季節を迎え、期待と不安が交差する。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 76.5	▲ 43.8	▲ 20.0	▲ 31.2	▲ 47.0	▲ 92.9	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 88.2	▲ 58.8
販売客数	▲ 70.6	▲ 43.8	▲ 13.4	▲ 25.0	▲ 47.0	▲ 92.9	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6
販売客単価	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 20.0	▲ 18.7	▲ 23.5	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 81.3	▲ 66.7	▲ 61.5	▲ 64.7	▲ 47.0	▲ 52.9
営業利益	▲ 82.4	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 37.5	▲ 52.9	▲ 85.7	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6
見通し	▲ 5.9	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 6.3	▲ 47.1	▲ 71.4	▲ 46.2	▲ 18.7	▲ 26.6	▲ 23.1	▲ 41.2	▲ 23.5	▲ 23.5

<経営者の目・見方・etc>

料理

・少ない人数での宴会があったが、客単価は低い月であった。

郷土料理

・10月になって Go To トラベルキャンペーン事業の地域共通クーポン利用の問い合わせが来て、急遽参加を決めた。手続きが沢山あり、とても面倒であった。クーポンや商品券の利用が多いが、現金がすぐには入らず、仕入れなどに回す資金が確保できずに悩ましいところだ。

食堂

・紅葉シーズンで天気も良く、田舎でも人出があったが、新型コロナウイルス感染症患者の人数が増え、これからの松本市が心配で営業の方も期待できない。

・Pay Pay の30%還元は売上に影響したと思う。Go To Eat キャンペーン事業などはどうするか未定である。

寿司

・9月のシルバーウィークを機に、県外だけでなく地元のお客様もより動き始めた感じがする。昨年と比べると物足りない感はあるが、100%を超える店舗も増えてきていることはいい傾向である。その一方で、引き続き商業・団体のお客様は動きがない中での第3波。忘新年会が期待できない中、費用対効果を考えると、広告を打たないことも検討するのが現状である。

・松本市と Pay Pay で企画した30%戻ってくるキャンペーンでは予想よりもはるかに利用者が多かったことには驚いた。11月に入れば Go To Eat キャンペー

居酒屋

そば

中華料理

ン事業も始まるので、大いに期待している。

・新型コロナウイルス感染症の関係でお客様の人数がまだ横ばいの状態である。このままの状態が続くと思うと不安でいっぱいになってくる。Go To 関連事業に対しては、少々の期待を持っている。

・新型コロナウイルス感染症が多い中での Go To 関連事業は危険な感じがし、多くの企業で動き出しているが、拡大が心配である。他県の方の飲食が増え、経営者側の不安も大きくなってきている。

・Go To 関連事業の恩恵を受け、7割近くまで回復したが、12月から2月までが心配で、夜に関しては大人数の予約が0であり、今は耐えしのぐしかない。

・人通りがなく、新型コロナウイルス感染症の終息を願うのみである。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	元年10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 34.1	4.6	0.0	2.2	▲ 8.9	▲ 25.5	▲ 56.8	▲ 61.4	▲ 65.9	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4
販売客数	▲ 40.4	0.0	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 8.9	▲ 32.5	▲ 59.1	▲ 54.5	▲ 63.4	▲ 46.5	▲ 44.5	▲ 41.9	▲ 19.6
販売客単価	▲ 25.5	2.3	▲ 2.2	4.3	▲ 2.2	▲ 16.2	▲ 31.8	▲ 36.4	▲ 39.1	▲ 25.6	▲ 20.0	▲ 20.9	▲ 8.7
営業利益	▲ 31.9	▲ 4.6	▲ 4.4	0.0	▲ 8.9	▲ 27.9	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 63.5	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8
見通し	▲ 2.1	▲ 7.0	▲ 10.8	▲ 4.4	▲ 40.0	▲ 44.2	▲ 34.1	▲ 20.5	▲ 9.7	▲ 11.6	▲ 13.4	▲ 4.6	▲ 6.5

<経営者の目・見方・e t c>

自動車整備・
板金塗装

・なかなか終息の見えない中、市内は県外客で賑わいを見せている。整備業界にもそろそろ影響が出てきそうな気配である。車販の落ち込みなど、次第に苦しくなるようで心配である。

機械設計

・昨年に比べたら悪いかもしれないが、それでもコロナ禍で業績が良くなった企業もある。次期はどうなるか見通しがつかない。

ソフトウェア

・新型コロナウイルス感染症の影響で、ERP（統合基幹業務システム）や基幹系業務システムなどの大型の案件は、面談の機会喪失、システム化予算の削減などの理由で軒並み減少している。しかし、グループウェアや分析ツールなど、クラウドを利用した補完的なシステムは増加した。開発環境や設計段階でリモートからの環境を活用できる体制にはメリットがある。

システムサポート

・短期のスパンで浮き沈みがあり、不安定な状態が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響は確かにあるが、変化に対応した自助努力が必

	<p>要であると痛感している。</p>
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は台風等で天候が悪い日が多く、客数が少なかったが、今月はGo To トラベルキャンペーン事業で特に上高地方面の観光客が増えて、地域共通クーポン券を利用してお客様が多かった。
理容	<ul style="list-style-type: none"> ・第3波なのか、新型コロナウイルス感染症患者が再び急増しているが、危機感をもち、感染拡大防止対策の徹底をしていきたい。これからの季節は特に、換気対策をどうするか、効率のいい換気を考えていきたい。
旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・Go To トラベルキャンペーン事業で当月は、前年比数%の落ち込みまで回復した。東京が加わり、一気に予約が増えたが、11、12月のキャンセルも出始めている。
温泉旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・Go To 関連事業の効果で前年同月比130%まで売上が良かった。11月も予約段階で既に前年の売上を超えているので、かなり期待している。12、1月は今のところ例年並みではないかと思われる。Go To 関連事業の効果でかなり大きな恩恵を受けている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響は未だに大きいですが、10月後半よりGo To トラベルキャンペーン事業を利用するお客様が多くなってきた。しかし、給付金の銀行振り込みが1か月後は悲しい。
観光旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に入ると、地域共通クーポンをチェックインの時にお渡しすることになったが、ぎりぎりまで届かず肝を冷やした。Go To トラベルキャンペーン事業のせいか、紅葉シーズンのせいか、10月は去年の8割の入込になり、土日は日帰りのお客様も多かった。しかし、お泊り代の65%しか貰えない上、クーポンを使っただいても、その分も残りのお泊り代と同じく、何か月後に入金されるか分からないため資金繰りが大変になった。年内に入金されればいいが。
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月強の営業で何もかも大変なシーズンだった。Go To トラベルキャンペーン事業は反響が大きいようだが、当社はなかった。理由は予約エージェントとのつながりがないこと、取り扱った場合業務が煩雑だと聞いていたためである。リピーター、常連さんに助けて頂いたシーズンであった。 ・Go To トラベルキャンペーン事業に東京が加わり、明るい見通しとなってきている。
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス客の利用は少し回復してきた。Go To トラベルキャンペーン事業の利用は多いが、あるから使う、という事が多い。宴会場の利用の回復はあまりなかった。 ・Go To トラベルキャンペーン事業の効果が大きかった。
測量・建設コンサルタント業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で今まで中止になっていた、測量設計業協会主催の高校生測量講習会が開催された。例年行っている昼食をとりながらの座談会は中止にしたが、対策を徹底しながら今後も事業を行えばいい。
不動産賃貸	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗賃貸先（CDレンタル、本、販売）で家賃30万円を5ヶ月引き下げることにした。

ホームクリーニング・ リネンサプライ	<ul style="list-style-type: none"> ・Go Toトラベルキャンペーン事業の影響により、売上高は回復しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症は増加の一途を辿り、不安と恐怖はまだまだ続きそうである。まずは家族、従業員、そして仲間のためにも一人一人が感染しないよう行動することが重要ではないかと考える。
教育業	<ul style="list-style-type: none"> ・10月はハロウィンイベントが恒例の行事となっていたが、コロナ禍で今年は見合わせになった。イベント等、今後も厳しい状況が続きそうである。
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設は新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、風邪予防対策で四苦八苦している。保育園や学校なども同様ではないか。
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・10月は客数、売上ともに前年並みだった。コロナ禍により来店頻度が下がってきたように思える。
獣医	<ul style="list-style-type: none"> ・春～秋にかけて昨年より業況は良好であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が、今後我々の業界にどのように及ぼすか、不透明で非常に不安である。